

# 名古屋丸の内ロータリークラブ Nagoya Marunouchi Rotary Club Weekly Report

例会会場：名古屋クレストンホテル  
(TEL : 052-264-8000)

例会曜日：木曜日 12時30分  
クラブ会報広報委員長：黒田 覇太郎  
HP : <http://nagoya-marunouchi-rc.org/>

2023-24年度 R.I. テーマ  
会長：ゴードン R. マッキナリー

Rotary  
Club of Nagoya Marunouchi



世界に希望を生み出そう

承認  
会長  
幹事  
事務局

1995.03.28  
松尾 雄二郎  
今村 昌根  
名古屋クレストンホテル  
1007号  
名古屋市中区栄 3-29-1

TEL 052-263-1324  
FAX 052-263-0730  
E-mail [seinan1@fancy.ocn.ne.jp](mailto:seinan1@fancy.ocn.ne.jp)

松尾 雄二郎 会長 年度目標 : 親睦、親睦、そして親睦、楽しんで 30周年につなげましょう

第1251回 例会 No. 27 令和6年 4月4日(木)

- ローターソング 「君が代」「奉仕の理想」
- 出席報告 会員46名中 24名出席
- 出席率 57.14% 出席計算人数42名
- ゲスト 田中さんゲスト 映画監督 古新 舜 様
- スピーカー 八木宏樹さん

## 会長挨拶 松尾 雄二郎

皆様こんにちは、4月に入って桜も咲いて花粉は少し収まって・・・。フレッシュな感覚な毎日でしょうか？



ニュースの正確さとか偏重報道とかマスコミのあり方が問われていますが、僕は日本のマスコミ、特に新聞社はじめ週刊誌とか活字系のレベルが低

く間違いが多いと思っています。丁度4月半ばにピューリッツァ賞が発表されるのがありますので、今日は少し蘊蓄(うんちく)で昔学んだジョセフ・ピューリッツァについて すごく 簡単に紹介します。

1847年ハンガリー生まれ(父ユダヤ・母ドイツ) 1911年逝去 64歳。正に裸一貫、英語も上手に話せない無学の移民からのアメリカンドリームを体現した人です。

父を幼くして亡くし、再婚相手の義父とは合わず家出、貧しい時代ですからオーストリア、フランス、インドで軍隊志願も採用されず、ドイツのハンブルグにて南北戦争の募集を聞いて北軍に入隊、2か月で終戦。言葉も出来ないなか図書館で独学勉強しながら小銭を貯めていくも詐欺にあう。苦労の連続ですが兎に角諦めない心の持ち主でした。彼を救った二人との出会いが大きく運命を変えていきます。ドイツ語新聞に投稿したものが採用され、ドイツ移民の多いセントルイスへ移り、図書館でチェスをして1人目のシュルツ編集長との出会いでベストリッヒポスト紙に誘われる。ニュースにがつく毎日の中で二人目のトーマスデビットソン先生に会い、合理的精神を習い理想が見えてくる。政治家の汚職等、理に合わないことを追いつけるようになり、時代に求められる中、英語が得意でなかったため、逆にグッドリスナーになり部数を伸ばす記者に成長する。共和党民主党どちらもたたく！(現在の韓国ユン大

統領が検事総長の時のように人気)。有権者の声を聴くというスタンスのまま州議会議員へ。シュルツ社主の身売りによりピューリッツァがオーナーになり、部数を伸ばしに伸ばすも 25歳で体を壊した際はシュルツが3万ドル(30億円?) 買い戻すことに。シュルツさんは本当に良いお金持ちでした。

AP通信の会員権を持つ新聞社を安く買ってモーニングローブに2万ドル(20億円)で売りつける。

2匹目3匹目のどじょうを狙い、セントルイスディスパッチ(AP付)セントルイスポストも買って合併。

- ・市民税が不公平なデータを入手したり
- ・賭博の胴元をたたいたり、市民からは絶大な人気を誇るようになりセントルイス最大の新聞社になる。
- NYへ進出、ワールドを買うと1万6千部からスタートも最終的に当時最多100万部へと、企業家としても成長しました。その間良い事ばかりでなく、マフィア胴元をたたいたりしているので何回も暗殺未遂にもあうし、最悪なのは視力が低下していき結果43歳で完全に失明しています。

「虚偽と不正を暴露、全ての悪と戦い民衆に奉仕する」という改革の旗を上げた彼には武勇伝は数多くありますが、面白いのは連邦議員時代、倉庫に眠っていた自由の女神を引っ張り出し、募金して台座を作りあげたそうです。

大切にすることは(自由・平和・正義)。つまり、

- ・不正腐敗は黙認しない
- ・一党一派にくみしない
- ・貧しい人に同情する
- ・特権階級に反発する

現代にも通じる、権力は腐敗する、統計は嘘をつくという事を忘れてはいけなと感じます。


遺言の中で

- ・NYフィルハーモニーに寄付
- ・メトロポリタン美術館に寄付
- ・トーマスジェファーソン立像作成

最後にジャーナリスト教育の為コロンビア大学に新聞学科創設 200万ドル寄付、内50万ドルをピューリッツァ賞の基金に、これが現在まで続いています。

私のような凡人には無理ですが、シュルツさんの様な尊敬できる方との出会いを大切にする、努力を重ねる。こういったことは心がけて誰でも出来ると思います。当クラブにも尊敬できる、目標になる先輩が沢山います。

中々凄い人だと思いついて、昔のメモを引っ張り出してきた蘊蓄でした 今日もし宜しくお祈りします

4月の祝福			
誕生日		結婚記念日	
1日	川原弘久さん	7日	高山さん
5日	河原さんご夫人	15日	松尾さん
	森田さんご夫人	21日	恵利さん
7日	亀井さんご夫人 成田さんご夫人		
24日	岩田宏さん		

ニコBOX	
●本日は新会員卓話を八木宏樹さんをお願いしています。宜しくお願いします。また、田中さんゲストとして、古新 舜さまにお越しいただき作品の紹介をさせていただきます。会員一同心より歓迎いたします。 松尾会長、今村幹事、藤田、杉江、岩本、田中、武山、小原、堀江亮介、小野、水野、加藤、恵利、堀江俊通、西川、後藤、矢野、佐久間、長谷川、高坂（敬称略）	
●誕生日のお祝いを有難うございます。 岩田さん、川原さん	
八木さん 本日卓話します。よろしくお祈りします。	
田島さん 八木さん、卓話楽しみにしています。	
本日合計 51,000 円	

### 新会員卓話

#### 八木 宏樹

本日新会員卓話をさせていただきます。よろしくお祈りいたします。

名古屋丸の内ロータリークラブの皆様こんにちは。

2月1日から新たに皆様の仲間に入れていただきました八木宏樹と申します。何卒よろしくお祈りいたします。入会してまだ2ヶ月余りですので右も左もわかりませんがこのようなお時間をいただきまして誠にありがとうございます。本日は少しでも皆様に私をより知っていただくようなお時間となれば幸いですので、プライベートなことをちょっと多めにお仕事より僕自身のことを知ってもらえるような紹介にしたいなと思っております。

まずは自己紹介からさせていただきます。1974年6月2日生まれの現在49歳でございます。名古屋の北区で生まれ育ち、飯田小学校、大曾根中学校、愛知工業高校と高校卒業までずっと北区で育ちました。

幼少の頃から小中高社会人とずっとサッカーを続けておりました。現在もシニアリーグと言いまして50歳以上で構成されるオーバー50と言われます県のサッカーリーグに所属しております。

オーバー50のカテゴリーでは、何にしろ49歳ですのでまだ新人ルーキーということで期待のルーキーということで、先日の開幕戦で、5対0で勝利しまして、4ゴール1アシストという鮮烈なデビューを飾らせていただきました。サッカーはずっとやっていますし、得意競技なのですが、ゴルフとなるとちょっと全く駄目です。まだ110を切れないような日々が続いております。足で蹴った方が本当に上手いんじゃないかと皆さんに言われるぐらいでございます。

実際、本当のゴルフ場でフットゴルフというものがありまして、一度行ったことあるんですけども、そのときはホールインワンをさせていただきます、かなり自分でもびっくり

したんですけども、今後は皆様とゴルフも回らせていただきたいと思いますが、まだまだ本当下手くそですので温かい目で見守っていただければ幸いです。

ここから会社の紹介をさせていただきます。

株式会社 YG と言います。春日井市にあります。なぜ YG かと言いますと、八木の YG、会社のロゴマークも、八木の 8 から取っておりまして皆様にわかりやすく覚えてもらえる名前がいいということでこの社名にしました。

仕事内容としましては、解体業をさせていただいておりますが、同じこのロータリークラブ同期入会である株式会社光の岩本さんとは同業種でございまして、ずっと長年一緒にお仕事もさせていただいていました。またこういったところで出会えたことも何か運命かなと感じております。

それでは解体とは何かなんですけれども、単純に建物を取り壊して更地にするというのが僕らの仕事となっております。一般家屋はもちろん、学校も、大きな工場も、



これは2年ぐらいかかった工場なんですけれども、こういった大規模解体もさせていただいております。

解体工事と言いますと、誰がやってもゴールは同じで更地になります。ただそこに至る経緯と言いますかプロセスと言いますか、技術力であったり安全面であったり、近隣様や環境への配慮にとっても気を使ってやれるかどうかの方が大事となってきますので、そういったところに気を使って仕事に取り組みさせていただきます。

私自身、解体業にはもう20年ほど携わっておりまして、全国にも結構仕事で回らせていただいております。特に熊本や福島の震災の復興に伴う解体工事もお手伝いさせていただいております。福島は5年ぐらいつと行ったり来たりして、特に富岡町浪江町の復興にずっと携わっております。一旦工事としてはキリがついたんですけども、また浪江町の方で新たな地区で解体工事があるということで、また復興のお手伝いをさせていただきたいなと思っております。そういった解体工事、仕事に関わる全ての方に、安心を与えられるような会社になりたいと思っております。



うちの会社の8つの心得ということで、安心だったり安全を

特に気をつけて作業をさせていただいております。解体させていただいた土地を、再生リバースしていくことをモットーに、大事に仕事をしております。会社の所在地は春日井市にありまして、生まれも育ちも名古屋市なのですが、縁あって今まで勤めた会社などは春日井市が多く、自身の会社でも春日井市に設立するとは思いませんでしたが、様々なご縁をいただきまして、春日井市を本社としております。春日井市や地域に対し、微力ですが地域貢献としまして昨年、元プロサッカー選手の名古屋グランパスエイトでもキャプテンを務められた、佐藤寿人さんを招待して、YGカップと称し、地元のサッカーチームや小学生中学生の子供たちを呼んで大会を開き、皆さんに喜んでもらうようなイベントも企画などして運営しました。子供たちだけでなく、お父さんお母さんにもとても喜んでいただいて、イベントとしては大成功しました。また別の日には、春日井市の80周年イベントや、春日井郡上祭など春日井にまつわるものの協賛であったり、名古屋のサッカーイベントなどに協賛して少しでも地域貢献できるように、日々活動しております。



まとめとしましては、大変長々とお話させていただきましたが、私は1人の人間としても、経営者としてもまだまだ未熟です。今回、田島さんのご紹介によりこの名古屋丸の内ロータリークラブへ入会させていただきましたので、皆様からのご指導とご鞭撻により今後成長していきたいと存じます。末永くかわいがっていただけていただけましたら、大変嬉しく思います。今後ともよろしく願いいたします。皆様ご清聴ありがとうございました。

### ゲストご挨拶

#### 「作品のご紹介」

コスモボックス㈱代表取締役 / 映画監督 古新 舜  
皆さんこんにちは。映画監督の古新 舜と申します。貴重なご縁をいただきました、田中さんそして名古屋丸の内RCの皆様ありがとうございます。私、今日は卓話でもないですし、プレゼン資料も用意してませんので口頭でお話させていただきますと思います。お手元にチラシをお配りしていますがこちらの映画が、明後日4月6日からシネマスコレという、中村区にある映画館で劇場公開ということで、そこに先駆けてこのような形で愛知に入らせていただきました。今回の映画はパーキンソン病という難病をテーマにしております。全国で30万人の方々为难病のパーキンソンにかかっていて、ほかにもASA筋萎縮性側索硬化症という、筋肉が衰えてしまったりする、そういう難病を抱えてる方々が全国にたくさんいらっしゃいます。

今回はパーキンソン病の方々の中でも若年性パーキンソン病という、30代40代、若い方だと20代でもかかってしまうという、その若年性パーキンソンの方々がかどのような形で自分の病気と向き合い苦しんでいるのか、そしてどういうふうにしていったら、社会が、そういう難病の方々とともに生きていけるかという包摂性を伝えていくような映画でございます。私の名前は古いに新しい古新と書きます。「こしん」とか「ふるあたら」とか、なかなか「こにい」とは呼んでいただけない。全国で80名しかいないそうです。私は岩手の釜石出身でございます。先ほどの卓話で福島の話もありましたけれども、やはり東日本大震災のときに、釜石市も壊滅状態になりました。うちのご先祖様は1000年ぐらい、岩手の釜石に住んでおりまして、山の上に家を建てろという家訓があり、そのおかげで私の家は無事だったんですけども、やはり町が壊滅状態になってしまって生活ができないような状況になりました。

私自身は日本の学校教育に馴染めませんでした。日本の学校教育のみんなが一緒に、正解を求めていく、早くスピーディーな効率性を求めそして、成績が上下でついてしまう。あれが僕はすごく苦しくて仕方がなかったです。

小学1年生のとき、特殊計算のつるかめ算がやりたいってと言って、5年生6年生ならともかく、1年生は1年生らしくしなさいって怒られてしまいました。今の時代はどんどん教育が変わってきましたけど、あの昭和の時代は人と違うことをしていると、変わっている、おかしいというような形でいじめられました。進学は第一志望は東大だったんですけども、東大の試験会場でがくがくふるえてしまって、もう全く実力発揮できませんでした。学級委員長もやっていて、みんなから第1志望の東大に入るんじゃないか、親からも期待をかけられていたけれどもそれを裏切ってしまった。「僕は学校に恥をかかせた」みたいな、そういう形で自分を追い込んでしまった人生があったんです。でもそのときに、何で日本の教育っていうのは学歴とかで人を判断したりとか、あとは自分のように第1志望に失敗して人生終わっちゃったなって思わせる教育なのかっていうことに、ちょっと気づいたんです。だから私は、そういう学歴が悪いとかではなくて、そういうものだけじゃない個性とか、自分がやりたいこととか、あとは学年を超えてでもチャレンジしていいよねっていうことをやりたいなと思い、大学1年生の18歳のときから自分の人生を歩むようになりました。



私はちょっと経歴が特殊でして、実は映画は嫌いだったんです。父親が映画好きでして、父親と私は犬猿の仲でした。うちの親父はそれこそ解体業に近いんですけど、ゼネコン

といいますか、設計事務所で一級建築士の親父は、やはり岩手の釜石から出てきたので、次男坊の俺は苦労してきたから、学歴と金が大事なんだということで、ずっと長男の私に対しては、教育熱心に育ててきました。

私は駿台予備校の物理の講師を10年間やりました。当時一緒にの教室にいたのが、東大の安田講堂を占拠した山本一太さんで、全共闘のあの方と一緒に協議しました。22歳のときに一応最年少講師で駿台予備校の講師をやりながら、運命的な出会いがあり、映画の助監督をやりました。

駿台の先生としては、お茶を運んでもらうわけです。「古新先生どうぞお疲れ様でした」と。片や映画の現場では下積みなので、「遅いぞ！早くお茶もってこい」とすごく怒鳴られました。予備校の先生ではちやほやされる。助監督では怒鳴られる。ブラックな毎日でした。でもそのときの私に「そっか、学歴が通用しない世界があるんだ」ということを気づかせてくれたのが映画の現場でした。逆に私はそれを知らなかったならば、ずっと天狗になって、学歴とかそういうもので人を判断するような人間だったかもしれないので、私は映画にすごく救われたんです。実はその震災があったときに、私は岩手の釜石まで行くことができずに、福島以南の南相馬に来ました。南相馬で2年間ボランティア活動をして、相馬の馬追という、平将門から1000年続く行事があり、馬を大事にするから相馬ってというような市なんですけれども、そこで私は、その人たちが、この町は馬がいなかったら、私達のいる意味がないっていうふうにおっしゃったんですね。私はこの言葉にすごく感動しました。なぜかという私は育ちが東京なんです、東京にいて、馬がいなかったら東京は成り立たないとは言われないじゃないですか。やっぱり学歴とか年収とかそういうものじゃないですか。私はその時に、人間中心の生き方というのは限界があるということを感じました。

そこで2年間ボランティア活動をしなが、原発20キロ圏内に入ったときに、ようこそ原子力のまちへという看板が掲げられてるんですけども、動物たちが野垂れ死んでいて人間たちはいない。もうこういう社会はやめようっていうふうに思ったんです。人間だけが中心になって、動物や家畜たちが、ある意味のけ者にされてしまう。こんな社会は絶対に続かない、とちょっと目覚めたんです。そして私の初めての作品は「ノー・ヴォイス」という作品です。ワンちゃん猫ちゃんたちが当時100万頭殺処分という、行政で殺されてしまう現実がありました。ワンちゃん猫ちゃんたちに罪はないです。飼い主さんがいなくなったから捨ててしまう。あとは多頭飼いとってたくさん飼うんだけど飼えなくなった。ペットショップで繁殖させたけども、売れ残ってしまった。そういうワンちゃんたち猫ちゃんたちがいて、ペットショップで売られてるワンちゃんはおもしろくて、もちろんそれが悪いことではない。ただ、その反面、殺されていくワンちゃんたちがたくさんいる。私達は綺麗なものだけを見てしまって、そういうふうに隠された事実があるということ、やはり見つけなきゃいけないと思って、私は初めての作品のテーマを、犬猫の殺処分にしました。

2作目は「あまのがわ」という作品で屋久島で作りました。分身ロボット OriHime というロボットが今活躍しております。寝たきりの方々が社会に参加するために、病室からロボットを操作して、自分は寝たきりなのに仕事ができるというロボットがあります。私の大学の後輩の吉藤オリイくん

という方が20代、ロボットを開発して、現在いろんなところで活躍しております。今回はパーキンソン病という難病をテーマにしています。自分自身が伝えていきたいことは、社会の問題って、決して誰かが何かやってる、かわいそうとか、それって悪い人の話だよじゃなくて、やはり他人事にしないということだと思ってます。

パーキンソンも、やはり自分がなってしまったときに、何で俺はこの病気に罹ってしまったんだ、これで人生終わったなって思う人がたくさんいらっしゃるようで、でもその中で、パーキンソンにかかったからこそ、自分の命は何なのか、生き方は何なのか、仕事って何なのかっていうふうに振り返る方々もたくさんいらっしゃるそうです。

その方々は、治ることのないパーキンソン病と向き合いながらも、仲間を作ったり、自分の限られた命をどういうふうに使っていくかという使命を持ち、そういう方々を私はたくさん見てきました。だからこそ、そういう難病というものを、社会全体みんなで考えていながら、私達がここにいるということは、たくさんのご先祖様や、先ほどの人間以外のものとか食事とか、色々な方々にお世話になってるご縁によるのだと感謝し、だからこそ、難病を悪者だけじゃなくて、自分の体に何かを教えてくれる感謝するものなんだなというふうに考えていく。そうするともっと温かい気持ちになるんじゃないかと、私はそういうミッション使命を持ってこの映画を作り続けて今に至っております。

もう早く人生終わりたい。もうこんな命ってなんかつらいなって思ってた人間が、逆に言うと、命に感謝をして映画という点数がつかない仕事をさせていただいてます。だからこそ、その100点満点にはならないけれども、お客様に笑顔や感動を届けたいと思っている私は、若いころ、学歴でずっと東大に落ちたと悩んでいたような人生とは逆な人生を、進んでいるからこそ、こういうふうに、今日皆様とお会いすることができました。私はこれからも皆様とともに、こういう形で自分の命に感謝をしながら、そして皆様とのご縁に感謝をしながら、生きてることを楽しんでいく。そして、そういうふうに人生の生き方の見方を変えていける子供たちや大人たちを増やしていきたいなと思っておりますので、これからもご指導やご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。本日は貴重な機会をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 第10回 理事会議事録

日時 4月4日(木) 12:00~  
場所 名古屋クレストンホテル 例会場  
出席者 松尾、川原、加藤、武山、小原、岩田、藤田、  
小野、恵利、矢野、今村、田中

議題

- 1 IM実行委員会について
- 2 現状の修正出席率計算について
- 3 岡山交流例会 クラブ補助の件
- 4 30周年記念式典の進捗状況の報告・確認

## 今後の例会予定

4月11日(木)「会員卓話」  
4月18日(木)「例会変更「創立記念夜間例会」 浩養園  
4月25日(木) 休会(4/29「昭和の日」)